

研究発表会のご案内



会場参加型

<令和5年度研究発表会 中信会場 第1分科会協議の様子>

- ◆ 6月15日(土) 生涯学習センター (第1分科会～第3分科会)
- ◆ 7月13日(土) 信濃教育会館 (第1分科会～第3分科会)

オンライン参加型

- ◆ 6月20日(木) 16:00～ オンライン① (第1分科会 石井・山田)
- ◆ 6月26日(水) 16:00～ オンライン② (第2分科会 内川・大月)
- ◆ 7月 2日(火) 16:00～ オンライン③ (第3分科会 佐々木・吉田)

《日程》 ※オンラインは、1つの分科会のみ、16:00～17:00までのZOOM開催となります。

対面 <6/15 生涯学習センター、7/13 信濃教育会館>

8:50～9:10 9:15 9:30 12:00

受付

全体会(佐伯所長挨拶)

分科会(第1分科会～第3分科会より選択)

学び合おう 子どもの目線から

この発表会は、研究所で学んだ第77期研究員が研究成果を報告し、報告をきっかけとして、参会の先生方と共に互いの実践を交流し合い、子どもの目線から授業のあり方を求める会でもあります。

改めて教師のあり様が問われている『今』、学校での実践にゆらぎが懸念される『今』、私たちは何を見据えて実践に取り組んでいったらよいでしょうか。皆さんと大いに語り合えたらと願っております。

第1分科会

教師と子ども、子ども相互の関係づくり

よりよく生きていこうとする，その子の願いの探究を支える教師

石井由里子(篠ノ井西小学校)



私には，子どもの思いを大切にしたいと思いつつも，つつい教師の思いで子どもに接してしまうという悩みがありました。しかし，研究所で学ぶ中で，子どもの思いを大切にかかわることには，その子の生き方の探究を支えるという大きな意味があったことに気がつきました。そこで私は授業においても，子ども自身の学びたい思いを全力で大切にしようと思いつつも小学校1年生と国語の『たぬきの糸車』を読みました。

私が教える，学ばせたいと思いつつときには起り得なかった学びの深まり，子どものみえ方，教師と子どもの関係などの研究の成果や，新たに生まれた課題について発表します。



子どものよさに気づき，凄さに驚く教師を目指して

山田潤(戸倉上山田中学校)



これまでの私は，教師がリーダーシップを取るために方法や仕組み，子どもをどう動かすかを考え指導してきました。しかし，そのような指導を続けるうちに生徒との関係がうまくいなくなってきました。研究所での振り返りの中で，私の先入観や思惑ではなく，実際の子どもの姿から「子どもの思いに気づく」こと。「子どものよさ」を発見していくことが教師と子どもの関係づくりには大切ではないかと考えるようになりました。実習では，特別支援学級の保健体育バレーボールを行いました。「思わずボールを回す私」「風船でバレーボール」「かかわることで嬉しいと感じる生徒」「夢中になり試合に取り組む生徒たち」。私自身一から生徒の凄さに驚き，一緒に授業や活動をつくることで，楽しさや嬉しさを共感していく体験ができました。子どものよさ，凄さ，驚き，共感を一緒に語り合ひましょう。

第2分科会

子どもの学びが深まる授業づくり

その子なりの運動の面白さを大切にしたい体育の授業を目指して

内川舜也(豊科北小学校)



「できるようになる」ことが体育の授業において第一だと考えていた私が，子どもにとっての運動の面白さを考え始めたことで，少しずつみえてきたことをまとめた研究です。本研究の成果は，体育の授業に限ったことではなく，全ての教科において大切なのではないだろうかと思いつつ始めています。

「子どもが自ら学びを深めていくには，何を大切にしたら良いのか？」

「できるようにさせることが授業の目標なのか？」

「もっと子どもたちの自由な追究を大事にしたい…」

そんなことを考えている先生方と楽しく語り合えたら嬉しいです。

#遊び #学び #遊び心 #自由 #面白さ #跳び箱 #驚き #寄り添い

子どもに寄り添い、共に探究する教師を目指して

大月美怜 (伊那小学校)



「先生、これでいいの？」とA児は自信なさそうに国語のノートを提出しました。一方、教科の授業とは対照的に総合ではA児がいきいきと学ぶ姿がありました。子どもが自ら学ぶとはどういうことなのか。総合「ホテル池にもっとホテルを飛ばしたい！」の実践を子どもの目線になって見つめ直しました。すると、A児ならではの背景や探究の道筋が感じられ、思いや問いが湧き出し、力強く学んでいたことがみえてきました。教科でも子どもの学びに寄り添いたいと実習では国語の授業を行いました。

研究全体を通して、子どもの学びと教師の子どもの見方やあり方が大きく関係していると感じました。教えようとする教師の思いから子どもをみてしまいがちな私ですが、子ども目線に徹する覚悟をもって寄り添いたい。そしてその子からふと生まれる思いや気づきを感じ、共に探究している私になりたいと考えています。子どもの学びや教師のあり方、現場での悩みなど参加者のみなさんと語り合えたらと思います。

第3分科会

今日的な課題に対応する多様な学び

「その子の今」から始まる学び

佐々木紗知 (佐久城山小学校)



わかる授業、楽しい授業をするために研鑽を積んできましたが、一人一人の学びを大切にするような授業とは程遠く、迷ってばかりの日々を過ごしていました。しかし研究を続けるうちに、私が何かを子どもに与えることばかりが学びなのではなく、子どもの内からはじまる学びがあること。そして、外から学びを与え続けることで、その子自身からはじまる学びが失われてしまうということに気づきました。

実習で出会った3年生のB児は、教室には居るものの授業中は離席の多い子どもでした。算数の時間、授業内容とは別にコンパスを片手に夢中で大きな円を描き続けるB児。私が教えることを一旦横におきB児の思いに寄り添ってみると、私には見えていなかったB児の世界があることを知ります。大きな円を描き続けるB児の学びとは何だったのでしょうか…。

研究会では「その子の今」からはじまる学びについて先生方と語り合いたいと思います。

子どもと共に学ぶ教師を目指して

吉田なぎさ (通明小学校)



子どもたちが「わからない」と言えば、解決できるように助けなくてはと思い、考えをなかなか書き表さない子どもがいれば、なんとか言語化させようと働きかけ、私はいつも自分の授業や支援の改善点を探しては悩んできました。

実習で出会ったD児は、国語『プラタナスの木』を読み進める中で、想像を膨らめながら答えのない問いについて考え続けました。叙述に戻さなくてよいのか、手立てが要るのではないかと私はここでも迷いました。しかし、『『プラタナスの木』は謎解き』という子どもの言葉から、教師のあり方として、子どもを支援するというよりも、子どもを信頼して見守ることが大切だったのではないかと感じています。私は、子どもたちと心を開き合い、共に学ぶ教師を目指したいと思います。

第77期研究員の発表 開催期日・会場

参加希望の方は、下記の【QRコード(Google フォーム)】よりお申し込みください。

※尚、開催期日ごとに申し込みのQRコードが異なりますのでご注意願います。

▼ 申込みはこちらからどうぞ！皆さまの参加をお待ちしております ▼

6月4日(火)
申込み〆切日

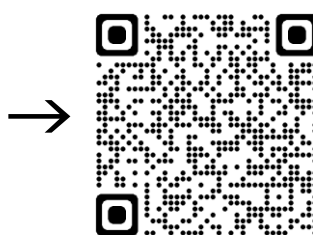


①6月15日(土)

信濃教育会生涯学習センター(対面)

②6月20日(木)

オンライン開催①(ZOOM)



6月10日(月)
申込み〆切日

6月17日(月)
申込み〆切日

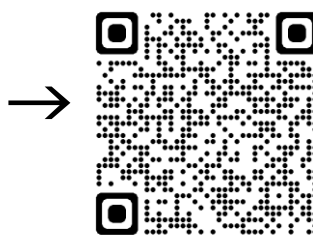


③6月26日(水)

オンライン開催②(ZOOM)

④7月2日(火)

オンライン開催③(ZOOM)



6月24日(月)
申込み〆切日

7月1日(月)
申込み〆切日



⑤7月13日(土)

信濃教育会館(対面)

お問い合わせは、【信濃教育会 教育研究所 [TEL:026-232-7169](tel:026-232-7169)】まで
HPでは発表会の昨年度の様子や、教育研究所についても記載していますので
是非ご覧ください。(HPは右にありますQRコードよりどうぞ)



信
教
HP